

ツール 39：オープンスペース

このツールの目的

さまざまなステークホルダーグループを巻き込み、参加者が自らグループを組織できるようにすることで、喫緊で複雑な課題に対処するためにメンバーを活性化させるアプローチ。

このツールを使うタイミング

MSPの初期フェーズで使うと、深掘りや問題の解決、計画策定が重要な場面で役立つ。特定のテーマについて、参加者が深い情報を生み出せるようにしてくれる。

オープンスペースとは

オープンスペースは、極めてフレキシブルな手法で、異なるタイプのステークホルダーグループのさまざまな人材やアイデアの活用をベースとしている。オープンスペースを用いることで、複雑な問題をテーマとしてグループが自ら組織され、参加者は、自分が熱意をもって取り組める課題を深掘りするためのアジェンダ作りと、それに責任を負うことを求められる。オープンスペースのベースは、参加者が革新的なアイデアを提供できるよう、学習と創造性を強化することにある。

オープンスペースのワークショップは、2～3時間から数日間にわたるものまでであるが、イノベーティブな結果を生むための十分な時間を確保することが重要だ。このツールは、少人数グループから非常に大人数のグループでも使うことができる。

ワークショップの前に、大きなテーマに関わる問いかけまたはステートメントを作成しておく。これがワークショップの中心テーマとなる。



出典：Art of Hosting

オープンスペースのセッティング

椅子をサークル状に並べ、中心にはスペースを残しておく。この椅子の並べ方は、すべての参加者が平等だということを表しており、互いに顔を合わせる形で座ることで、協働を促している。

ワークショップの大テーマに関して書き出せる空白の壁面を選ぶ。また、アジェンダ用の壁面とニュース用の壁面も作っておく。

セッションの開始

ファシリテーターは参加者に対し、ワークショップのテーマについて、誰ともしゃべらずに内省し、自分の心に強く響くアイデアや課題を考え出すように促す。参加者が強い思いを持つ、あるいはそれに責任を持つと思えるアイデアは、すべて空白の壁面に書き出す。この空白の壁面は「市場」として機能することとなる。その後、自分たちにとって意味のある課題についての少人数グループでの議論のホスト役になってくれる参加者を募る。

また、ファシリテーターは、オープンスペース・ワークショップの基本原則を説明する。

原則：

- グループにとって参加するのが不適切な人はいない。
- 起こったことはすべて、過去に起こり得たことである。
- 始めるのに悪いタイミングはない。
- 終わるのに悪いタイミングはない。

二本足の法則

参加者にはいつでも位置を変え、自分が強い思いを感じることをできる、あるいはそこで責任を担いたいと思うセッションに移動できると伝える。

ミツバチと蝶

「ミツバチと蝶」は、1つのグループディスカッションから別のグループディスカッションへと渡り歩く参加者を比喻した表現だ。二本足の法則を用いることで、参加者は位置を変える。それにより新たなインプットや新たなつながり、より広い視野が生まれ、参加者が「新たなアイデアの種を撒」いたり、「互いを豊かなものとする」ことができるようになる。

市場を開く

ファシリテーターは、課題を1つ選んだ人全員に、サークルの真ん中に進み出て、何を選んだかを言うように促す。これらの参加者は、トピックス名と自分の名前、ミーティングを行おうと思う時間と場所を書き、アジェンダの壁面に招待文を掲載する。

すべての招待文が掲載されると、参加者は、自分が選んだセッションに申し込み、二本足の法則を使ってそのワークショップで意見を出す。

同時に少人数のグループディスカッションがスタートする場合もある。各セッションではファシリテーターが指名され、そのファシリテーターは、ニュースの壁面に出すためのレポートが必ず作られるように図る。各グループには、フリップチャートの紙やカラーペンを多めに配付する。

一旦ワークショップが始まると、全体セッションのファシリテーターは「姿も見えず、声も聞こえなく」なることが望ましい。これは自ら組織を生み出すアクティビティであり、参加者には自分たちの裁量の余地が必要で、ファシリテーターの役割は、この裁量の余地を維持することである。参加者が、自身の創造性や問題解決スキルをフル活用できるよう、安心して率直に議論できる環境を作ることが、ファシリテーターには求められる。

サークルの終了

ワークショップ終了の30～60分前になると、ファシリテーターは参加者全員に、主要な学びや印象に残ったことを話すよう促す。この時間帯は、議論するのではなく個人の感想の共有を図り、さまざまな議論から得られたアウトプットを集約する時間だ。トーキングスティック（議論をする際にスティックを持っている人が発言をし、持っていない周りの人は黙って聞くというルール）を使ってもよい。

ワークショップのために数日が設けられている場合は、より深い理解とコミットメントを形成するために、同じステップを繰り返すこともできる。

さらに知りたい方は：

<http://openspaceworld.org/wp2/>

Essential Elements of Open Space Technology:

<http://www.michaelherman.com/cgi/wiki.cgi?OpenSpaceTechnology/EssentialElements>

Planning an Open Space Technology Meeting:

<http://www.chriscorrigan.com/parkinglot/planning-an-open-space-technology-meeting/>

オープンスペースに関する3分の動画（Art of Hostingの許諾により掲載）：

www.youtube.com/watch?v=a3jVOKQYm6E